

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム あんず
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	群馬県館林市代官町8-15
記入者名 (管理者)	原澤 明紘
記入日	平成 19年 9月 10日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	○	家庭的な雰囲気の中で安心して、共同生活を営むことが出来、また、個性を生かしながらそれぞれの役割を持つことで自信と生き甲斐を持って生活できることを目指すため、開設時に、管理者、職員が共に運営理念を考え出している。また、運営推進委員会等で地域に知っていただいている
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	これからも、この理念について、考え、またどのように実践していくか、考えていく予定である
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	御家族には、入居時に運営理念について説明している。また地域には運営推進委員会を利用し理念を伝えている。外部から来られた方には掲示板を利用し見ていただいている
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	隣近所の方と挨拶は出勤時に欠かさず行っている。また、近隣の方とおしゃべりを行っている。また、これからも、隣近所の方と親密な関係を築けるように努力していきたい
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	現在は納涼祭のときにお神輿等に来ていただき、地域の行事に参加している。また、これからも地域の行事に参加したいと思う。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方が気軽によっていただけるように、どのようにしたらいいか、話し合っている。また、介護相談や認知症の相談があった場合は対応する予定である。	○	現在は隣の方が重そうなゴミ等を捨てようとしたときに手伝ったり、また、病院に行くまでのトイレを利用していただいたりしている。また、玄関先まで来て帰ってしまう方がいるので中に誘っている
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価表をつけ、再度、あんずについて、見直しを行った	○	今回がはじめての外部評価なので、その結果をよく、吟味し、改善していきたい
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	転倒予防やレクリエーションで取り入れていった方が良いものを話し合っている	○	これからも、運営推進会議を実施していき、地域の方と連携や意見交換が出来るように対応していきたい
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	人員についての基準や、事故の報告書の提出等の必要な状況について等、困ったことがあれば、市役所に相談している。また、実地指導を利用し困り事等を相談している	○	困りごと等があった場合又は市役所に相談している。また、館林市の独自のサービスについても調べて利用していきたい
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在は必要な方はいないが、マニュアルを作成し、また、必要な方には援助を行っていきと考えている	○	現在、利用される方がいないが、相談があれば、対応していく予定である
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、職員で、高齢者虐待防止関連法について話し合い、虐待がどのようなのか理解し、そのようなことは、行わないように注意している。また、御家族が会いに来られたときに様子を観察し、虐待を行っている家族もいない	○	もし、このような事態が起こったときは、早期に関連機関に報告し、対応していく予定である

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前より、話し合ったり、ホーム内を見学していただき、あんずでの生活に疑問点等を利用者や御家族が質問していただきお答えしている。また、入所時にも同様に、不安や疑問のある点は説明を行っている	○ これからも、利用者や家族が納得して、あんずを利用していただけるように努めたい
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が気軽に意見や要望を言える環境を作っている。また、利用者の要望を無理の無理のない程度で聞くようになっている。施設内で解決できない場合は、御家族に協力をお願いしたり、運営推進委員会を利用している	○ これからも、利用者の方の意見等を反映し、住みやすい環境を作っていく
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	御家族が会いにこられたときに、管理者、職員が生活ぶりを説明を行っている。また、病院へ通院後に電話連絡等を行っている	○ 日々の記録を利用し、利用者の御家族に日々の状況について理解していただけるように記録物等を個別に作っている
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者の家族がお見えになった時に、希望やどのように改善していただきたいか訴えがあったときは早急に対応を行っている	○ 御家族が会いに来られたときにケアプランを説明し、どのようにしたらいいか希望を聞いている。また、記録物を見ていただき希望を聞いていきたい
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	大事なことは、管理者が独断で判断するのではなく、職員と、話し合いで決めている	○ 大事なことは、管理者が独断で判断するのではなく、職員と、話し合いで決めている
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	家族の要望があればどのようにしたらいいかケアカンファレンスでそのつど、業務や記録物をどのようにしたらいいか話し合っている	○ これからも記録物についてや、勤務体制について利用者や御家族の希望に応じて変更していく予定である
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係を維持していくため、現在はグループホームでの移動についてはしないように法人全体で考えている	○ 退職者が出た場合は、退職されたということを伝えるのではなく、お休みをしていると伝え、利用者のダメージを最小限に抑えている

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	開設時前に姉妹法人のグループホームで、一日から三日日間の研修を行い、また、開設後、同法人内の研修会に参加している。また、入職時にマニュアルを使用し説明を行っている	○ 姉妹法人の研修会に参加や施設内研修を予定している。他にもグループホーム連絡協議会のレベルアップ研修会に申し込みをし、交換研修を行う予定である
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に入会し、研修等に参加している。また、姉妹法人の施設にグループホームがあり、意見の交換を行っている	○ これからも同業者と連携をとり、より良いサービスを提供できるようにしていきたい
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の悩み事を聞くように努めている。また、系列の病院の交友会を利用しストレス解消を行っている	○ これからも、系列施設の親睦会の行事に参加し、ストレスをためないように対応していきたい
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の実績を目に見えるように失禁等のグラフを作り対応している。	○ 職員の実績を目に見えるように失禁等のグラフを作り対応している。また、施設内の研修を行い、各職員のレベルアップや悩み事が共有でき解決できるようにしていきたい
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前に可能であれば本人に中を見ていただき、その際、あんずでの生活について説明をお行う。また、本人が無理な場合でも家族の方に中を見ていただき、あんずでの生活をどのようにしていくか希望を聞くようにしている	○ これからも、入所の際は本人や家族にあんずを見てもらい、理解していただいた上でサービスを利用できるように対応していきたい
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所の申込書にご本人の状態について記入する項目があり、また、ご家族や、本人と面談し、現在の困りごとや不安なことについて聞くように努めている	○ 入所の際にあったては、何が困っていることなのか、不安なことについて聞くように努めている。本人の生活暦等を聞き、どのような生活をしてきたのか、在宅での生活が維持できるように努力している

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用の際は、現在どのような状況であるか、聞き取りを行っている。また、入所が困難な場合については、他の施設への紹介等を行っている	○	利用の際は、現在どのような状況であるか、聞き取りを行っている。また、入所が困難な場合については、他の施設やサービス等の紹介等を行っている
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人のペースで生活できるように入所時に生活暦の聞き取りを行っている。また、本人の嗜好についても聞き取りを行っている	○	基本情報や申し送りノートを利用し職員間で情報が共有できるようにしている
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と共に生活するという意味で食事を一緒にとっている。また、職員もコミュニケーションを取るように心がけている	○	利用者と共に生活をし、喜怒哀楽を共に共有できるように対応していけるようにする
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	御家族が会いにこられたときは、お茶等を出しつろいでいただいている。また、たまにはあるが、知人の方が一緒にレクリエーション等に参加していただいている	○	面会については、記録に残しているが、面会簿や面会時間はあえて設けていない。御家族の方がいつでも来れるように対応している。また、あんずへ来られたときはくつろいでいただいている。また、行事への参加を呼びかけ利用者や利用者の御家族が共に喜びを分かち合えるようにしたい。また、クリスマス会や、あんず祭り等にご家族を招待す
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	御家族にいつもの状況やどのような生活をしているか説明し、また、行事等の参加についての写真を掲示板に提示し、どのような生活をしているか伝え、また、認知症であっても、御家族が疎遠にならないようにしている	○	御家族の都合で会いにこれないことがある場合でも、通院の結果の報告と共に生活の様子等を伝えている
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所に住まれた方がいて、その際、知人の方の面会を受け入れている。また、散歩等に出かけ、昔の知り合いの方に挨拶をしたりしている。また、病院に通院時に友達に会うことが多い。	○	なじみの関係を維持できるようにこれからも、散歩を実施していく
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の会話でお互いが励ましあっているのを見受けている場合は互いの様子を観察し無理に職員が介入しないようにしている。	○	利用者同士の会話でお互いが励ましあっているのを見受けている場合は互いの様子を観察し無理に職員が介入しないようにしている。また、利用者同士、さらになじみの関係が作れるように努力していきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現在は退所された方がいないが、対応していく予定である	○	現在は退所された方がいないが、対応していく予定である
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の方や、家族の人から、意見要望を聞き、ケアプランや日ごろの介助に反映している	○	利用者の方から訴えられないケースや御家族が遠慮しているケースがある場合はその人にとって何が必要なことであるか、その人を観察しケアプランを作成している
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その人らしい暮らしの援助として、入所時、生活歴の聞き取りを行いバックグラウンドの把握に努めている。また、お部屋に持ってきていただくものや、箸、茶碗はなるべく以前から使っていたものを用意していただいている	○	その人らしい暮らしの援助として、入所時、生活歴の聞き取りを行いバックグラウンドの把握に努めている。お部屋に持ってきていただくものや、箸、茶碗はなるべく以前から使っていたものを用意していただいている。また、御家族に状態を説明したときに以前の生活とを聞き取りしている
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	排泄のパターンや、バイタル等を観察している。また、昼夜、問わずに様子を観察して、その利用者にあったペースで生活をしていただけるように努力している	○	記録物に、普段の生活を細かく記録している。そのことから、生活の把握をし、利用者のペースで生活できるように援助している
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	チームケアのため、入居者の状態の申し送りは常時行っている。月一回の職員会議やケアカンファレンス等で意見交換を行いケアプランを作成している	○	状態の変化や定期的にカンファレンスを行えるような環境を整備している
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態に合わせ、6～3ヶ月の間にアセスメントを再度取りケアカンファレンスを行いケアプランを作り変えている。また、家族の方の支援が必要な場合は、御家族にお願いしている	○	これからも、利用者の状態に合わせ、6～3ヶ月の間にアセスメントを再度取りケアカンファレンスを行いケアプランを作り変えている。また、家族の方の支援が必要な場合は、御家族にお願いしている

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録物を見て、アセスメントを取り直し、ケアカンファレンスを行い家族の意見を反映しケアプランの見直しを行っている	○	毎日の記録物を見て、アセスメントを取り直し、ケアカンファレンスを行い家族の意見を反映しケアプランの見直しを行っている。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	御家族が会いに来られたときに要望等聞きだし、通院やレクレーションの取り入れ等を行っている。	○	これからも、御家族との連携を密にし、要望や意見等を遠慮なく言える環境を作っている。また、必要に応じて、訪問看護や、隣接のデイサービスを利用していく
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進委員会を利用し、地域との行事に参加している。また、避難訓練を行うときは消防の人に立ち会ってもらい実施している。また、利用者の方で好みの美容院や理髪店がある場合は、家族との調整を行っている	○	姉妹法人の施設にボランティアが来てくれる事があるのでその行事に参加していく。また、あんずでもボランティアを受け入れていく予定である
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在は利用者は必要としている利用者がいないが、ひつよな場合は行う予定である。また、運営推進会議を利用し館林市独自のサービスについて調べている	○	現在は利用者は必要としている利用者がいないが、ひつよな場合は行う予定である。また、運営推進会議を利用し館林市独自のサービスについて調べ、利用できるようにしたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	オープン前に協力していただけるように挨拶をしている。また、適時協力していただけるようお願いをしている	○	これからも、地域包括支援センターの方とは連携を密に取って行きたいと思います
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に主治医の確認を行っている。また、近隣に病院があり、月一度定期の通院を行い指導を受けている。そのほか、年2回の健康診断を実施する予定である	○	入所時に主治医の確認を行っている。また、近隣に病院があり、月一度定期の通院を行い指導を受けている。そのほか、年2回の健康診断を実施する予定である。



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	<p>主治医は内科の医師であることが多いが、医師は認知症に詳しい。また、系列の病院には精神科があり、行動障害が強い場合は通院を行っている</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	<p>隣接のデイサービスがオープンすれば看護師が配置される予定である</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	<p>退院時は、情報提供所をもらうようにしている。また、系列の病院以外の場合は、紹介状をいただくようにして、スムーズに施設の生活に復帰できるように対応している</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>現在、ご家族には医療が必要になったケースには系列の病院に入院させて欲しいと訴えているケースが多く、必要になった場合は連携できるようになっている</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>系列の施設に病院があり、医療が必要なケースであっても協力できる体制がある。これから、医療的な処置が必要になった場合は、訪問看護等を利用していく予定である</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	○	<p>現在、住み替えの方はいないが、もしそのような場合は、御家族や次に行かれる施設の方に説明を行うように心がけている</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉がけには職員全員が本人の尊厳を大切にし、注意を行い対応している。	○ 言葉がけには職員全員が本人の尊厳を大切にし、注意を行い対応している。また、入職前に、個人情報の取り扱いについて同意書を撰るようになっている
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者には、食事の時間だけを決め、他は、自由に過ごしていただき自己決定できる機会を作っている。また、声掛けを多くするようし、要望や意見等を言いやすい環境を作っている。また、本人の意向については、記録物や申し送りノートで全員が把握できるようにしている	○ なるべく、声掛けを多くするようし、要望や意見等を言いやすい環境を作っている。また、本人の意向については、記録物や申し送りノートで全員が把握できるようにしている
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースで生活できるよう、無理強いはずし、意欲が出る言葉がけを行っている	○ これからも、本人のペースで生活できるよう、無理強いはずし、意欲が出る言葉がけを行っている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	施設のきてくださる、美容師の方、お願いしている方が6名いる。また、カットだけでなく、パーマや染め等を行えるようにしている。在宅で、行きつけのある方が3名で、ご家族につれてい手もったり来ていただいたりして、カットをしていただいている	○ これからも施設のきてくださる、美容師の方、お願いしている方が6名いる。また、カットだけでなく、パーマや染め等を行えるようにしている。在宅で、行きつけのある方が3名で、ご家族につれてい手もったり来ていただいたりして、カットをしていただいている。この体制を崩さないように維持していく
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入所時に嗜好について尋ね、食べられないようなものがある場合は、別なものを用意して対応している	○ 施設内の食事ではなく、環境を変え、食事を取っていただき、いっそうおいしく食べていただけるように努力している
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	現在、タバコを吸われているか一名いらっしゃり、外ですべていただいている。おやつについては、毎日3時に用意し手作りや、好みにあったものを提供している。10時のお茶の際は本人の好みに合ったものを提供している	○ 利用者の方の好みの嗜好等は医療的に制限がない場合に限り、実施する予定である

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の時間の統計をとり、排泄のパターンの把握に努めている。また失禁のない方も失禁を予防できるようにしている	○	本人の無理のない程度に誘導し、失禁の回数を減らせる努力をしている
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望に合わせて週2～3日は入浴できるように支援している。ゆったりと楽しいバスタイムを心がけている。また、プライバシー保護の観点から、個別入浴で対応している	○	一人一人の入浴について考え、対応している。また、個別入浴で、介助者が一人につき一人つくようにしている。介助者が二人必要場合は二人で入浴している。くつろげる時間に出来るように努力している
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夕食後フロアで、ゆっくりテレビを見ていたい方は見ていただき、その人の入眠時間にあわせて対応している。パジャマ等に替えていただき丹生眠していただく。また、夜間、安心して睡眠をとっていただけるように、気づかれぬように巡視を行っている。眠れないとの訴えがあった場合は話を聞き安心して眠れるように支援している	○	消灯時間を定めずその人のペースで寝たり起きたりできるように対応している。個人のペースを乱さないように対応している
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人が持っていた趣味等をレクリエーションに取り入れている	○	これからも、その人が持っていた趣味等をレクリエーションに取り入れたいと思っている
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、2名の方がお金を自己管理をされている。現在は買い物ツアー等を企画中である。	○	現在、2名の方がお金を自己管理をされている。現在は買い物ツアー等を企画中である。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	現在は暑い季節になったしまったので散歩等は体力のある、希望者にしているが、これから涼しくなったらは外出等の機会を設けたい	○	これから、散歩等に適した季節になるので、散歩や中庭でのイベントを実施していきたい
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	オープンしてすぐに暑い季節になってしまったので、外出行事はあまり出来なかったが、これから、外出行事を企画していきたいと思っている。また、自宅への帰省や墓参り、知人の所へ遊びに行く等、可能な方は、実施している	○	利用者の状態や利用者の御家族が可能な限り外出の機会を設けている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在、本人から電話をかけることをしている利用者はいないが、事務所の電話を利用してもらっている、ご家族から電話があった場合は電話口に案内していることがある	○	現在、本人から電話をかけることをしている利用者はいないが、ご家族から電話があった場合は電話口に案内していることがある。また、手紙等も活用していきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	現在、近隣に住んでる友人の方が会いにきていただいている	○	病院の通院のときや散歩で隣の人や昔のなじみの人と会うことがあり、お互い会話している。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないケアを実施している。マニュアルを作成し対応している。	○	これからも身体拘束を行わないケアを実施していく予定である
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	現在は番号キーを使用しているが外部からの出入りは自由である。(ご家族には説明済み)	○	現在は番号キーを使用しているが外部からの出入りは自由である。(ご家族には説明済み)また、利用者の方で散歩等を希望されていたり、玄関のところにいる場合は、散歩等に連れ出している。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜問わず、利用者の状態について、見守り観察を行っている	○	現在フロアーに一人いるようにして見守りを行えるようにしている。また、夜間も一時間おきに巡視を行い利用者の安全確認を行っている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤等の危険なものは十分注意を払い保管場所に取り決めがある	○	洗剤等の危険なものは十分注意を払い保管場所に取り決めがある
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットを利用し事故防止に努めている。	○	ヒヤリハットの内容を全員で共有できるように会議のときに職員全員で話し合いをしている

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	現在、救命法の研修を受講したり、マニュアル等を作成し対応している	○	現在は、マニュアルを作成している。また、救命法の研修にも夜勤を行うものは全員受講している
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練等を年2回行う予定である。また、運営推進会議を通じて地域の方に呼びかけていく予定である	○	避難訓練等を年2回行う予定である。また、運営推進会議を通じて地域の方に呼びかけていく予定である
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入所時に家庭起こりうることについて説明をし、同意していただいている。また、本人のペースで生活できるように取り組んでいる	○	入所時に家庭起こりうることについて説明をし、同意していただいている。また、本人のペースで生活できるように取り組んでいる
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日、体温、熱、血圧等をチェックを行っている。状態の変化や異常のサインについては迅速に職員間で情報の共有が図れるようにし、必要に応じ早めの通院介助を行っている	○	毎日、体温、熱、血圧等をチェックを行っている。状態の変化や異常のサインについては迅速に職員間で情報の共有が図れるようにし、必要に応じ早めの通院介助を行っている
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに内服の説明が閉じてあり、職員が把握できるようにして服薬を支援している	○	通院時には申し送りノートに変更になった薬を記載し、服薬の説明をファイルに入れ、職員がだれでも見れるように対応している
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎朝、10時のときにコーヒーを飲んでいただいているが、中に牛乳をいれ、便秘予防を行っている。また、日ごろのメニューの中に食物繊維が多いものを用意している	○	その人に応じた排便パターンをチェック表で確認している
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後は、入居者の能力に応じた促し介助を行っている。また清潔を保持している。	○	食後は、入居者の能力に応じた促し介助を行っている。また清潔を保持している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員と一緒に食事を取ることで、入居者の食事の状態を把握している。職員の申し送りにより、代替食なども工夫している。また、職員の中に栄養士がおり、栄養バランスを考えた献立を作成している	○	食事量のチェック表や水分量のチェック表を作り、利用者の食事量を把握している。また、嫌いなもの場合は代替食を用意している
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策として、マニュアルを作成し実行している。うがいや手洗い等、清潔に注意している	○	感染症対策として、マニュアルを作成し実行している。うがいや手洗い等、清潔に注意している
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材はその日に使い切る良を毎日用意をしている。食器等は乾燥機にかけ、殺菌している。調理器具等はアルコールやハイター等で殺菌している	○	食材はその日に使い切る良を毎日用意をしている。食器等は乾燥機にかけ、殺菌している。調理器具等はアルコールやハイター等で殺菌している
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は、バリアフリーになっていて季節の花や植物を置いている	○	玄関のところに季節のプランターが置き、入りやすい環境を作っている
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	まぶし過ぎないように明るさを調整したり、職員も必要以上に大きい声を出さないように対応している。談話スペースにソファが置いてありゆったりと落ち着いた雰囲気ですごせるようになっている。冬場は掘りこたつがあり、そこで過ごせる。また、中庭を利用し季節の植物を植えるなど対応している	○	まぶし過ぎないように明るさを調整したり、職員も必要以上に大きい声を出さないように対応している。談話スペースにソファが置いてありゆったりと落ち着いた雰囲気ですごせるようになっている。冬場は掘りこたつがあり、そこで過ごせる。また、中庭を利用し季節の植物を植えるなど対応している
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前にソファがおいてあり利用者同士がゆったりと過ごせるような空間を作っている。食事等、気のあった人と食べられるようテーブルを分けてある。一人になりたいときは、自由に居室に戻ることが出来る	○	テレビの前にソファがおいてあり利用者同士がゆったりと過ごせるような空間を作っている。また一人になりたいときは、自由に居室に戻ることが出来る

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お部屋のもの、今まで使ってきたものを用意していただいている	○	お部屋のもの、今まで使ってきたものを用意していただいている。また、危険なものでなければ自由に持ち込んでいただけるように、御家族に説明している
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室や、フロア、トイレ等に換気扇が設置されており、また、大きな窓があり外からの空気を取り入れられるようになっている	○	各居室や、フロア、トイレ等に換気扇が設置されており、また、大きな窓があり外からの空気を取り入れられるようになっている
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、浴室等に手すりがついている	○	廊下やトイレ、浴室等に手すりがついている。また、トイレは車椅子の方でも利用できるように広くスペースが取ってある
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	能力に合わせ、自分のお部屋がわからないような方には表札や目印を用意している	○	必要なりようや希望があった利用者は表札をつけている。また、本人が拒否をされている場合があるので一律に表札は設けていない
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭を利用し、リハビリ体操やレクリエーションに利用している	○	これから、気候が涼しくなるので、中庭を利用しイベント(バーベキュー、花火、お茶、外での食事)等に活用していきたい

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

まだ、開所したばかりの施設ですが病院に近いので、医療関係とも連携が取れる施設です。